

せんなんの街道マップ

岡田浦砂浜のハマヒルガオ	[A1]	見ごろは5月の初旬から6月の中旬ごろ。
泉南マリンブリッジ	[A1]	全長649m。ジョギングコースとしても人気。
地引網体験	[A1 (岡田浦漁港)]	天然の砂浜で地引網体験ができる。
せんなんわくわく広場	[A2]	地域資源を生かした産品の提供、情報発信の場として開設。
サザンビーチとウミガメの産卵地	[A2]	関西空港が一望できる。過去2度の産卵を確認。
男里川の干潟	[A3]	大阪湾では数少ない干潟のひとつ。渡り鳥や希少種が多く生息。
青い龍舌蘭	[B1]	100年に一回しか花が咲かないとされている貴重な植物。
里外神社	[B1]	境内の王餘魚瀬は、後鳥羽上皇に献上の「カレイ」を飼育した伝説がある。
旧樽井町役場	[B3]	樽井小学校内にある。昭和4年竣工。
専徳寺と天水枡	[B3]	江戸初期に再興。天水枡は名石工・奈良利兵衛の作。
茅渟神社	[B3]	社名にちなみ釣り愛好家がお参りにくともしばしば。
天神の森	[B3]	浜の宮。山之井水門との伝承がある。
仁右衛門坂	[B3]	江戸時代、深見仁右衛門が作った坂といわれる。
南泉寺	[B3]	由緒書によると現在の樽井の地名発祥の寺といわれている。
脇田家と石垣	[B3]	苗字帯刀を許された江戸時代の大庄屋。
紡績工場跡「赤レンガRU」等	[B3 (赤煉瓦の紡績工場跡)]	工場跡をうまく活用。
茅渟神社の湯神楽神事	[B3 (茅渟神社)]	巫女が舞い、無病息災を祈念する神事。
根来街道の起点碑	[B3 (根来街道の道標)]	風吹峠を越え紀州まで続く根来街道の起点。
樽井山ノ井遺跡碑と男里山ノ井遺跡碑	[B3 (山の井遺蹟公園・山之井遺跡の碑)]	『日本書紀』の記載にゆかりのある場所として建立されている。
浄光寺の鐘楼と菖蒲	[C2]	花菖蒲は900鉢以上。鐘楼は1702年のもの。
八反川	[C3]	豊富な湧水で昔から野菜洗い、洗濯場、子供の水遊び場となっていた。
光平寺と石造五輪塔	[C4]	五輪塔は南北朝時代のもの。
男神社の粥占い	[C4]	毎年1月、農作物の豊凶を占うためのもの。御宮式という。
男神社の社叢	[C4 (男神社)]	大阪府みどりの百選に選定。
小石室と男里遺跡	[C4 (男里遺跡の小石室)]	小石室は雄信小学校へ移設されている。
樽井の紋羽	[樽井地区]	厚手の綿織物。江戸時代以降、盛んに樽井で生産されていた。
茅渟神社の渡御	[樽井地区内]	やぐらを先頭にお稚児さん、神輿と続き樽井の浜へ。
秋祭り	[市内一円]	「やぐら」と呼ばれる二輪の地車市内のあちこちで曳きまわされる。
押し寿司	[市内一円]	秋の祭りのごちそう。ふるさとおにぎり百選に選定。

街道沿いの大阪ミュージアム登録物
泉南市内にある大阪ミュージアム登録物は、75件と盛り沢山。このうち、浜街道沿いの29件をご紹介します。

街道沿いの「せんなんのたからもの」
見慣れたものでも、地域の記憶がいつばい。泉南らしい有形無形の文化遺産を公募し、市民のエコミュージアム化が目標。詳しくは「せんなんのたからもの」活用のごあんない平成22年度版を参照（泉南市埋蔵文化財センターのホームページからダウンロード可）。

故大田儀助君之碑	[B1]	岡田地区にあった大田商店の販路拡大をたたえ、製造元の和歌山市酒造組合が建立。
戦時中の防火水槽	[B1]	太平洋戦争中に空襲に備えるために設置された。地区に4つあったが現存する唯一のもの。
樽井煉瓦製造所の記憶	[B2]	レンガ工場の記憶。明治37年創業、昭和20年廃業。「西園寺公望の別宅」の瓦を焼いたとか。
三和煉瓦製造所の記憶	[C2]	レンガ工場の記憶。明治41年創業、昭和47年頃廃業。この工場には「輪環(ホフマン)窯」があった。
煉瓦のお社	[C2]	三和煉瓦製造所のお稲荷さん。自社製の煉瓦でできたお社。
「やきすぎ」を使った煉瓦餅	[C2]	三和煉瓦製造所製の「焼通」をつかった家屋の餅。
酬梅田吾一君清徳碑	[C4]	大正時代に、地区住民が建立。雇用創出のため織布工場を設立した功績をたたえたもの。
戦時中の国旗掲揚台	[C4]	太平洋戦争中、隣組単位で建てた国旗掲揚台。
力石	[C4]	昭和20年代までの青年の遊び道具。「石玉」と呼ばれ、重さは40貫(150kg)。

散策のマナー 皆さんが大切にしている自然を荒らすことのないようお願いします。個人宅、事業所などに無断で立ち入ることのないようお願いします。



浜街道

この地図は住民と行政がアイデアを出しあって作成しました

浜街道

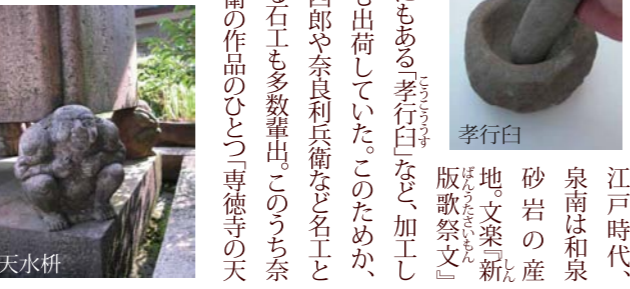
江戸時代、大坂と和歌山とをつなぐ紀州街道のうち、泉佐野(鶴原で分岐し、海岸線に沿って進むルートが「浜街道」だ。樽井から先は深日、谷川、小島を経て紀伊に入る。寛文五年(1665)に「孝子道」として記されている。寛政三年(1791)以前は、紀伊藩主及び家中の往来などの通行量が、「信達(小栗)街道」よりも多かったようだ。



江門時代、大坂と和歌山とをつなぐ紀州街道のうち、泉佐野(鶴原で分岐し、海岸線に沿って進むルートが「浜街道」だ。樽井から先は深日、谷川、小島を経て紀伊に入る。寛文五年(1665)に「孝子道」として記されている。寛政三年(1791)以前は、紀伊藩主及び家中の往来などの通行量が、「信達(小栗)街道」よりも多かったようだ。

石と石工の有名なまち

江門時代、泉南は和泉砂岩の産地。文楽「新版歌祭文」の台詞にもある「孝行臼」など、加工したのも出荷していた。このためか、石屋半四郎や奈良利兵衛など名工と称される石工も多数輩出。このうち奈良利兵衛の作品のひとつ「専徳寺の天水枡」は今もみることができ。



天水枡

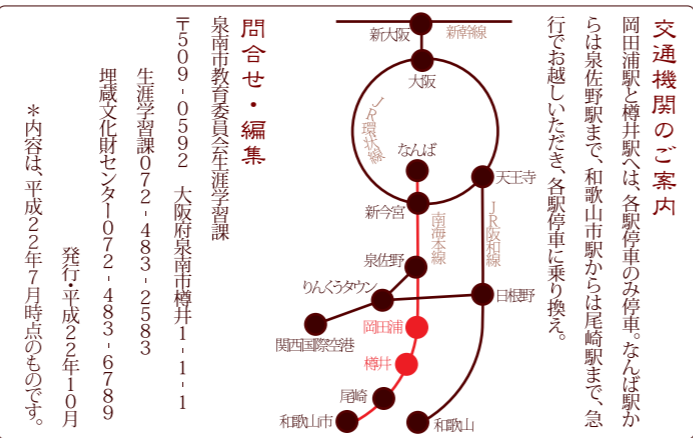
日本書紀ゆかりのまち

日本書紀には「神武天皇が戦に敗れ、兄の五瀬命は敵の矢により負傷した。一行は船で南下し途中、山井水門にさしかかった際、剣をつかんで無念さを雄雄しく叫んだ。これにちなんで人々はこの場所を雄水門と呼ぶようになった。」との一節がある(神武天皇即位前記)。この「雄水門」が泉南市内だとされ、ゆかりの場所が今も大切にされている。



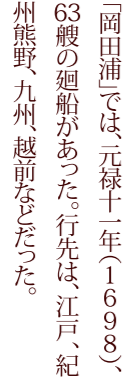
個性豊かな町並み

それぞれ個性があるが、短時間で楽しむのなら岡田地区。変化に富む街歩きが楽しめる。「浦」と呼ばれる地区の街道沿いには、格子戸をもつ町屋や土蔵が残る。海岸近くは路地が入りくみ散策すると楽しい。一方、「陸」と呼ばれる地区は、趣が異なる。用水路に沿った道沿いに、妻入りの奥行ある民家が建ち並ぶ。



廻船商いのまち

「樽井浦は正徳五年(1715)、船21艘のうち5艘が「あきないぶね」で、その行き先は土佐と薩摩。豪商、深見仁右衛門の作ったとされる「仁右衛門坂」など、その頃のものが今も残る。



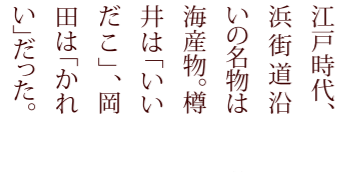
江門時代、泉南は和泉砂岩の産地。文楽「新版歌祭文」の台詞にもある「孝行臼」など、加工したのも出荷していた。このためか、石屋半四郎や奈良利兵衛など名工と称される石工も多数輩出。このうち奈良利兵衛の作品のひとつ「専徳寺の天水枡」は今もみることができ。



船先が特徴の「黒船」

腕のいい漁師のまち

江門時代、泉南は和泉砂岩の産地。文楽「新版歌祭文」の台詞にもある「孝行臼」など、加工したのも出荷していた。このためか、石屋半四郎や奈良利兵衛など名工と称される石工も多数輩出。このうち奈良利兵衛の作品のひとつ「専徳寺の天水枡」は今もみることができ。



三百年続く「糸へんのまち」
ルーツは江戸時代の「和泉木綿」にさかのぼる。樽井村は岸和田藩領でも木綿栽培が盛んで、綿糸や紋羽に加工していた。紋羽とは、綿布を起毛させたもので、防寒着の生地として珍重された。樽井村で紋羽生産が始まったのは、一説では寛延三年(1750)。「みな競って紡績をしていた」のは昭和30年頃。その伝統は少なくとも三百年になる。



和泉木綿の着物

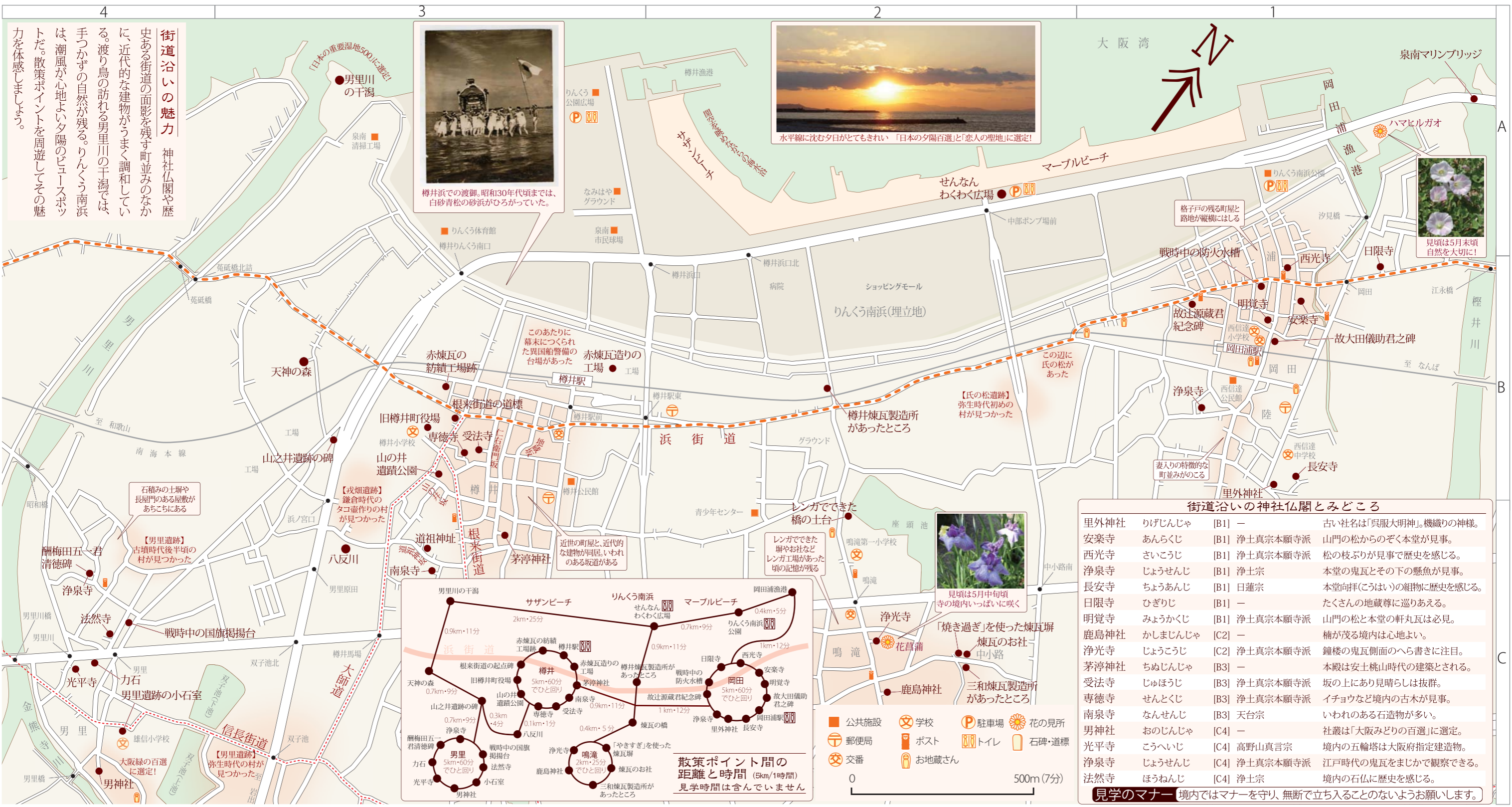
黒糖づくりが盛んだったまち

「甘蔗(サトウキビ)」は地元生まれの年配の方には懐かしい「おやつ」。市内で栽培し黒糖に加工し出荷していたから。19世紀半ばには、男里岡田村で甘蔗栽培と砂糖生産が行われていた。当時、岸和田藩内に砂糖を江戸へ出荷する商人は12軒あり、うち2軒が樽井村の商人だった。その後、黒糖作りは昭和30年代まで続いた。



街道沿いを訪れた人たち

伊能忠敬 日本初の実測地図「大日本沿海輿地図」作成の為、文化二年(1805)、浜街道沿いを測量した。
吉田松陰 幕末「松下村塾」を開き高杉晋作、伊藤博文などを教えた。
嘉永六年(1853)、岡田の医師山田文英宅に12日間宿泊した。
鳥羽伏見の戦いに敗れた旧幕府軍慶応四年(1868)1月、会津・桑名両藩士が紀州経由で江戸に敗走する途中、樽井に3日間滞在した。
原敬 大正時代に首相をつとめ「平民宰相」と呼ばれた。明治三十一年(1898)、開業間もない樽井駅に下車し、金熊寺梅林を見物した。



街道沿いの魅力 神社仏閣や歴史ある街道の面影を残す町並みのなかに、近代的な建物がうま〜く調和している。渡り鳥の訪れる男里川の干潟では、手つかずの自然が残る。りんくう南浜は、潮風が心地よい夕陽のビュースポットだ。散策ポイントを周遊してその魅力を体感しましょう。



樽井浜での渡御。昭和30年代頃までは、白砂青松の砂浜がひろがっていた。



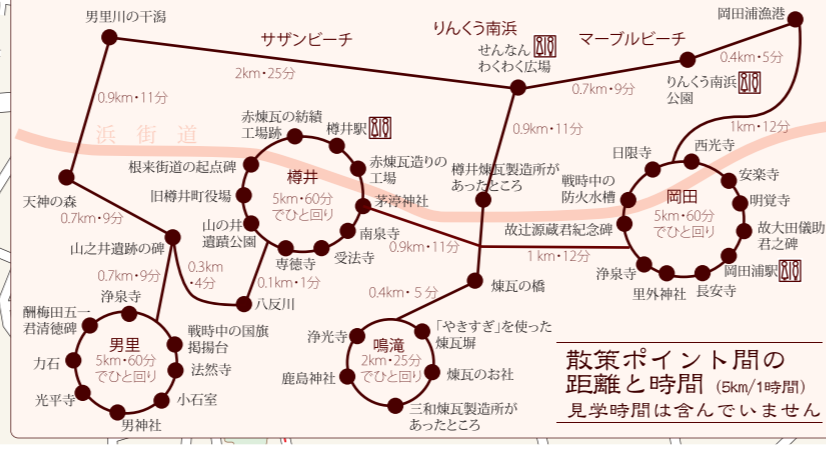
水平線に沈む夕日がとてもきれい。「日本の夕陽百選」と「恋人の聖地」に選定!



見頃は5月末頃 自然を大切に!

里外神社	りげじんじゃ	[B1]	—	古い社名は「異服大明神」。機織りの神様。
安楽寺	あんらくじ	[B1]	浄土真宗本願寺派	山門の松からのぞく本堂が見事。
西光寺	さいこうじ	[B1]	浄土真宗本願寺派	松の枝ぶりが見事で歴史を感じる。
浄泉寺	じょうせんじ	[B1]	浄土宗	本堂の鬼瓦とその下の懸魚が見事。
長安寺	ちょうあんじ	[B1]	日蓮宗	本堂向拝(こうはい)の組物に歴史を感じる。
日限寺	ひぎりじ	[B1]	—	たくさんの地藏尊に巡りあえる。
明覚寺	みょうかくじ	[B1]	浄土真宗本願寺派	山門の松と本堂の軒丸瓦は必見。
鹿島神社	かしまじんじゃ	[C2]	—	楠が茂る境内は心地よい。
浄光寺	じょうこうじ	[C2]	浄土真宗本願寺派	鐘樓の鬼瓦側面のへら書きに注目。
茅渟神社	ちぬじんじゃ	[B3]	—	本殿は安土桃山時代の建築とされる。
受法寺	じゅほうじ	[B3]	浄土真宗本願寺派	坂の上にあり見晴らしは抜群。
専徳寺	せんとくじ	[B3]	浄土真宗本願寺派	イチョウなど境内の古木が見事。
南泉寺	なんせんじ	[B3]	天台宗	いわれのある石造物が多い。
男神社	おのじんじゃ	[C4]	—	社叢は「大阪みどりの百選」に選定。
光平寺	こうへいじ	[C4]	高野山真言宗	境内の五輪塔は大阪府指定建造物。
浄泉寺	じょうせんじ	[C4]	浄土真宗本願寺派	江戸時代の鬼瓦をまじかで観察できる。
法然寺	ほうねんじ	[C4]	浄土宗	境内の石仏に歴史を感じる。

見学のマナー 境内ではマナーを守り、無断で立ち入ることのないようお願いします。



散策ポイント間の距離と時間 (5km/1時間) 見学時間は含んでいません

自然をめぐる
男里川の干潟「A3」大阪湾で数少ない干潟シギヤチドリなどの渡り鳥が飛来し、ハクセンシオマネキなどのカニ類や、オカヒジキやハママツナなどの海浜植物がみられる。

石碑をたどる
故大田儀助君之碑「B1」明治時代、「大田商店」の販路拡大の功を称え、和歌山市酒造組合が建立。
故辻源蔵君記念碑「B1」レンガ工場を設立するなど、地域の向上発展に尽力した功績を称え、住民が建立。
酬梅田五(一)君清徳碑「C4」地区の雇用創出のために紡績工場を設立した功績を称えたもの。工場設立のわずか5年後に住民有志が建立。

煉瓦のお社「C2」三和煉瓦製造所のお稲荷さん。台座には自社製の赤煉瓦、参道には自社工場にあった「輪環(ホフマン)窯」の部材が使われている。
「焼き過ぎ」を使った煉瓦塀「C2」出荷できない「焼き過ぎ」をつかったもの、煉瓦の色や形がとも個性적이다。
赤煉瓦の紡績工場跡「B3」大正時代
3)大正8年設立の樽井紡績株式会社建物の樽井駅付近からよく見える。

レンガをめぐる
明治時代以降岡田、樽井、中小路、男里などで少なくとも4軒のレンガ工場が操業していた。「西園寺公望の別宅」の瓦も焼いた。樽井煉瓦製造所が創業した明治37年に始まり、「輪環(ホフマン)窯」があった三和煉瓦製造所が廃業する昭和47年頃までの約70年間、市内で煉瓦が作られていた。調湿性がある煉瓦は紡績工場にちょうどよい建材で、煉瓦を用いた構造物がいまも数多く残る。

日本書紀ゆかりの地をめぐる
天神の森「B3」別名浜の宮、男神社摂社。神武東征の折、矢傷を負った五瀬命が雄たけびを上げた地。これにちなみ、五瀬命をまつるが、その後、男神社に遷座した。男神社「C4」毎年浜の宮まで神輿の渡御が行われる。式内社。「大阪みどりの百選」に選定の社叢にはムクロジの木などがある。
山の井遺蹟公園「B3」五瀬命が矢傷を洗ったとされる井戸や伝説にちなんだ石碑がある。公園整備された地区で大切に保存されている。
山ノ井遺蹟の碑「B3」「雄水門」の伝説を今に伝える石碑がある。府道新設に伴い今の場所に移設した。